

令和 6 年度 いの町橋梁長寿命化修繕計画策定委託業務

1. 本業務の目的

本業務は、いの町の管理する橋梁（N=388 橋）について、効率的・効果的な維持管理を実践するための個別施設計画を策定するとともに、今後、老朽化する道路構造物の延命化に対応するため、従来の対症療法的な修繕および架替から、予防保全的な修繕および計画的な架替に改めることで、橋梁の長寿命化と修繕・架替に係わる費用の縮減と平準化を目的とする。

2. 業務内容

(1) 計画準備

関係資料（橋梁台帳、点検調書、竣工図等）を収集・整理したうえで業務全体の作業計画を行い、実施体制、工程等について計画する。

(2) 対象橋梁の整理

- ア) 対象橋梁毎の橋梁の諸元を整理する。橋梁の諸元は、道路橋定期点検要領に定める点検表記録様式（その 1）の各項目のほか、協議により定める。
- イ) 橋梁の諸元を評価項目として評点を設定し、橋梁毎の重要度を定める。

(3) 健全度把握及び維持管理の方針策定

点検・診断によって得られた個別施設の状態について、施設毎に健全度の把握を行うとともに維持管理の基本方針を策定する。

健全性の診断は、定期点検要領に記載される部材毎の判定区分に従うものとする。

(4) 老朽化対策における基本方針、対策工法・対策時期などの検討

対症療法的な事後保全型の維持管理から、損傷等が軽微な段階に修繕を行い機能の保持・回復を図る予防保全型の維持管理への移行により、中長期的な維持管理コストの縮減と平準化を図る。

また、「対策の優先順位の考え方」及び「個別施設の状態等」を踏まえ、次回の点検・診断や修繕・更新、機能転換・用途変更、複合化・集約化、廃止・撤去、耐震化等の必要な対策について、講ずる措置内容や実施時期を施設毎に整理する。

(5) 集約化・撤去の検討

橋梁の集約化・撤去は、中長期的な維持管理コストの縮減を図るための手段の一つである。一方で、道路は地域の生活や社会経済活動を支える重要なインフラであり、橋梁の集約化・撤去を行うと、目的地までの所要時間が増加するだけでなく、災害時における移動経路の多重性が損なわれる場合があることも想定される。このため、橋梁の集約化・撤去については、周辺道路の整備状況、代替路の有無、橋梁の損傷状況等を踏まえ、将来的な利用状況を十分考慮したうえで、必要に応じて検討を行う。

(6) 新技術の活用方針

コスト縮減や事業の効率化を目的として、管理する全ての橋梁を対象に、点検や措置等に係る新技術の活用を検討する。なお、過年度の点検・診断において健全であることが確認されており、触診や打音検査の必要性が低いと想定される橋梁については、点検におけるドローン等の活用を重点的に検討し、令和 10 年度までに約 100 橋で 3 百万円程度のコスト縮減を目指す。

(7) LCC の算定

個別橋梁の LCC が最小あるいは最適となる補修計画を検討するため、橋梁ごとに予防対策型シナリオ、早期対策型シナリオ、事後対策型シナリオ、更新型シナリオを設定し、個別橋梁のシナリオごとに算出した LCC の比較検討を行い、LCC が最小あるいは最適となる補修計画を個別橋梁ごとに選択する。

(8) 修繕計画の策定

点検・措置等について検討を行い、年次計画を策定する。

なお、事業の進捗状況や、新たな点検・診断結果により計画は適宜見直しを行う。

(9) 検討会及び学識経験者への協議資料作成

維持管理の基本方針及び劣化予測の手法について、点検結果を基にした基本的な考え方を整理し、学識経験者に意見聴衆を行う。なお、意見聴衆は 1 回を予定している。

(10) 公表用資料作成

業務における検討結果を踏まえ、長寿命化修繕計画及び概要版（公表用）を作成する。

(11) 打合せ

打合せは管理技術者が立ち会うものとする。

- ・ 業務着手時
- ・ 中間時(1 回)
- ・ 成果品納入時

なお、本業務を適切かつ円滑に進めるために適宜、打合せを行うこととする。

3. 成果品

本業務の成果品は、以下のとおりとする。

- ・ 業務報告書（紙媒体 1 部、電子データ 1 式）
- ・ その他 調査員の指示するもの

4. 疑義等

本仕様書等に定めないことがあった場合及び疑義が生じた場合には、発注者と受注者とが協議して定めることとする。